

【和鉄の道・Iron Road2024】

鉄のロマン 生駒山地の北端部山麓 奈良市「富雄丸山古墳 [円墳]」の鉄遺物に接して【2】

和鉄の道・Iron Road 資料に見る大和王権による国造りが始まった謎の4世紀

和鉄の道・Iron Road 掲載資料の整理 2024.4.20. Mutsu Nakanishi

和鉄の道・Iron Road ばらばらに記事にしてきた 日本の始まりと日本の鉄の歴史 整理

「日本の国造りの始まりと鉄」を Key Word に関連記事の関係項目で整理してリストアップ

和鉄の道・Iron Road 「謎の4世紀」を眺めなおす資料にしました。

資料 和鉄の道・Iron 「日本の国造りの始まりと鉄」 リンクリスト

<https://infokkna2.com/ironroad2/2024htm/2024iron/24iron03.pdf>

大和王権による日本づくりと鉄 まだ文字のない謎の4世紀

畿内(近畿)幻の鉄器の4世紀ともいわれる謎多き古墳時代の始まり

弥生時代が終わり、初期大和王権による国造りがはじまった古墳時代の始まり。

日本ではまだ文字がなくて正確な記述資料がなく、国内事情が明確にならぬ空白の4世紀とも呼ばれる時代。

また「鉄」についてもまだ製鉄技術がなく、朝鮮半島・大陸の「鉄素材」に頼らざるを得ない時代が続く。

◎ 弥生時代の終末期【1】 鉄の安定供給を求めて 倭国大乱の時代

朝鮮半島・大陸に近く、いち早く先進技術を取り込んで繁栄した北部九州。

そして、日本各地に割拠した地域政権の小国が争って、鉄「鉄素材」を求めて朝鮮半島へ向かい、

国内諸国間での争いが起こる。【日本各地に地域小国が起こり、群雄割拠。世にいう倭国大乱の時代】。

◎ 弥生時代の終末期【2】 朝鮮半島の鉄素材の覇権を握った邪馬台国連合

鉄の安定供給確保を背景に日本の国づくりの始まり その国造りの象徴が巨大な前方後円墳築築造。

◎古墳時代の始まり 初期大和王権による日本の国造り 世にいう「空白の4世紀」

卑弥呼の時代を引き継ぎ、大和に生まれた日本統一政権 初期大和王権による古墳時代の始まり

日本に文字が伝来する5世紀初までは、この時代を記述した文書は日本になく、

日本と中国を中心とした東アジア交流を記述した中国の書記述と日本の各地出土の遺跡考古学資料研究との突合せに頼らざるを得ない時代。この時代の「鉄」についても事情は同じである。

■日本と朝鮮半島の交流

一方、この時代 中国大陸諸国と日本の狭間にある朝鮮半島もまた戦乱の伽耶・新羅・百済の三国時代。

朝鮮半島に近い北部九州では活発な技術交流とともに、朝鮮半島諸国に進出を始めた日本。

朝鮮半島の鉄や先進技術を求めた日本進出の痕跡も朝鮮半島にも数多く残されていて、中国の書物にも

その記述が垣間見える。 朝鮮半島南部に残る前方後円墳群や三国の争いへの日本介入の記録等々

また、数多くの工人たちが日本へ逃れ住み、半島に近い北部九州に限られていた先進技術が西へ広がり、大和王権の中樞大和にも。

「渡来人」の言葉と共に、鉄鍛冶技術を含め、数多くの先進技術が大和王権の国造りに呼応して伝来した時代でもありました。そして、5世紀初めには日本に文字 6世紀半ばは仏教が伝来。

大和王権の中樞 大和周辺には大和王権の中樞を担う豪族たちの鍛冶工房を含め、大規模な生産工房。

日本の鍛冶技術・鉄器製造も大変革。 実用鉄器の使用が大きく展開されてゆく。

待ち望まれてきた製鉄の始まりは5世紀末頃

日本固有の技術として、砂鉄・鉄鉱石を原料として、たたら製鉄が始まる。

鉄のロマン 生駒山地の北端部山麓 奈良市「富雄丸山古墳 [円墳]」の鉄遺物に接して

【1】 [NHK スペシャル] 古代史ミステリー 第2集 ヤマト王権 空白の世紀 2024年3月22日

「相次ぐ新発見！蛇行剣や盾形銅鏡から見えてきたヤマト王権のすごさ」を視聴して

<https://infokkna2.com/ironroad2/2024htm/2024iron/24iron02.pdf>

■【映像資料 奈良市富雄丸山古墳出土の鉄遺物】5分間に凝縮した「Nスペ5min」より整理転記

<https://www.youtube.com/watch?v=NsMpX5cieuA>

NHKスペシャルの魅力を5分間に凝縮した「Nスペ5min。」

『古代史ミステリー第2集 ヤマト王権 空白の世紀』のダイジェストをご紹介します。

■ 添付 富雄丸山古墳 第6次調査 現地説明会資料 2023.1.28 & 29. 奈良市教育委員会 埋文センター

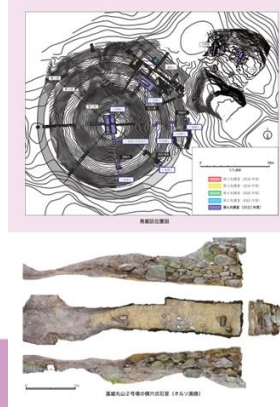
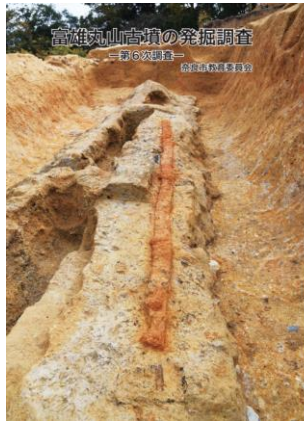
https://www.gensetsu.com/20230128_tomio-maruyama/20230128_tomio-maruyama.htm

【2】 和鉄の道・Iron Road 資料に見る大和王権による国造りが始まった謎の4世紀 掲載資料の整理

資料 和鉄の道・Iron 「日本の国造りの始まりと鉄」 リンクリスト

<https://infokkna2.com/ironroad2/2024htm/2024iron/24iron03.pdf> 2024.4.20.

*** 古代史の謎「空白の4世紀」を解き明かすのか？ 奈良市富雄丸山古墳出土の鉄遺物 ***



【1】 [NHK スペシャル] 「相次ぐ新発見！蛇行剣や盾形銅鏡から見てきたヤマト王権のすごさ」を視聴して
古代史ミステリー 第2集 ヤマト王権 空白の世紀 2024.3.22. 視聴

<https://infokkna2.com/ironroad2/2024htm/2024iron/24iron02.pdf>

■【映像資料 奈良市富雄丸山古墳出土の鉄遺物】 5分間に凝縮した「Nスペ5min」より整理転記

<https://www.youtube.com/watch?v=NsMpX5cieuA>

NHKスペシャルの魅力を5分間に凝縮した「Nスペ5min.」。

『古代史ミステリー第2集 ヤマト王権 空白の世紀』のダイジェストをご紹介します。

■ 添付 富雄丸山古墳 第6次調査 現地説明会資料 2023. 1.28 & 29. 奈良市教育委員会 埋文センタ

https://www.gensetsu.com/20230128_tomio-maruyama/20230128_tomio-maruyama.htm

【2】和鉄の道・Iron Road 資料に見る大和王権による国造りが始まった謎の4世紀 掲載資料の整理
資料 和鉄の道・Iron 「日本の国造りの始まりと鉄」 リンクリスト

<https://infokkna2.com/ironroad2/2024htm/2024iron/24iron03.pdf>

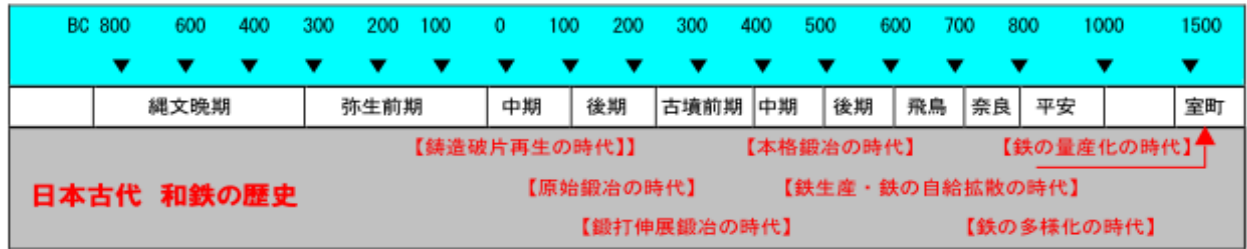


富雄丸山古墳の位置と5世紀前後の大坂湾・河内湖の位置と大和王権の位置関係をインターネットで調べて上記に。3世紀後半卑弥呼の後の時代 4世紀半ばに 生駒山脈の北端近くの富雄の丘に長尺蛇行剣・盾形鏡などを副葬する巨大円墳がなぜ造られたのだろうか・・・ふと頭に浮かんだ妄想ですが、思いを巡らす。円墳の頂上部と造りだし部 蛇行剣だと武器ではなく祭祀 男性？女性？ と興味深々。

◎大和王権の中枢奈良盆地の南部と富雄丸山古墳が築造された奈良盆地の北西端富雄の関係 真っ先に浮かんだのは大和王権の軍事を担った物部氏との関係 河内湖から大坂湾への北出口？ 奈良盆地の南から河内磐船へ抜ける神武天皇東遷の古道、富雄から生駒山を抜ければすぐ河内湖。大坂湾へ抜ける最短コース。また、物部氏の拠点地域で 東国への出口でもある。河内へ抜けた河内磐船は物部氏の拠点の一つ。鉄器生産工房がある河内磐船遺跡。

物部氏や東国と関係が深いともいう前方後方墳がいくつもあつた。
大和王権の武器庫 物部氏の拠点天理・留ともつながっているではないか・・・
そんな思いを抱きながら、富雄丸山遺跡の調査の進展に興味津々で眺めています。
2024.4.15. From Kobe Mitsu Nakanishi

資料 ー 日本古代 和 鉄 の 歴 史 ー



1. 縄文晩期～弥生前期 紀元前 2 世紀～紀元 1 世紀 **【鑄造破片再生の時代】**

中国・朝鮮半島との交流は縄文時代晩期には既に始まっており、中国にその起源をもつ鉄器が日本に現れ、その後弥生前期には中国で製造された鑄物製の鉄斧などの破片を日本で割るなどの再加工して使用する事が始まる。

2. 弥生時代中期～後期 紀元 1 世紀～3 世紀初頭 **【原始鍛冶の時代】**

薄く板状に鑄込み表面脱炭去れた素材が日本に持ち込まれ、曲げなど簡単な鍛冶が行われるようになる。

3. 弥生時代後期以降～古墳時代中期 2 世紀～4 世紀 **【鍛打伸展鍛冶の時代】**

中国では脆い鑄鉄鑄物ばかりでなく、鉄鉱石を低温還元焼成してつくられた塊状錬鉄が得られるようになり、脱炭鑄鉄と同時に日本にこれらが持ち込まれるようになり、これらを素材とした鍛錬加工(原始鍛冶)がスタートし、次第に本格鍛冶へと移って行く。

4. 古墳時代初頭以降 初期～中期 3 世紀前半～5 世紀 **【本格鍛冶の時代】**

大陸では塊状鉄精錬が本格化し、鍛冶材料として広く流布。朝鮮半島でもこの塊状鉄精錬がスタートしたと見られるが、はっきりしない。

この当時 半島朝鮮半島の南部辰韓・加耶と倭国との交流が始り、4 世紀半ばには加耶が鍛冶加工された薄い鉄板(鉄)の供給基地として登場し、渡来人の交流と共に大量の鉄が鍛冶原料として持ち込まれるようになる。当初 3 世紀には北九州に限られた鉄の先進地が 5 世紀には瀬戸内・出雲・吉備・畿内へと東進してゆく。この間日本に於いてはこれら朝鮮半島から持ち込まれた鉄と共にこの鍛冶・加工に使った鍛冶炉跡や鍛冶滓が大量に見つかるようになる。

5 世紀後半になると畿内には大泉遺跡のような大規模な専業鍛冶集団が生まれて勢力を伸ばす。

5. 古墳時代中後期～飛鳥・奈良 5 世紀末～8 世紀 **【鉄生産・鉄の自給拡散の時代】**

その始りはまだはっきりしないが、5 世紀末から 6 世紀初頭にかけて 鉄鉱石原料とした箱型炉による製鉄精錬が日本国内(吉備)で始り、鉄素材の自給が始まった。また 国内に大量

■ 謎の4世紀 和鉄の道 関連掲載記事リスト要約：

■和鉄の道・Iron Road 資料に見る大和王権による国造りが始まった謎の4世紀へ

- ◎ 弥生時代の終末期 [1] 鉄の安定供給を求めて 倭国大乱の時代
朝鮮半島・大陸に近く、いち早く先進技術を取り込んで繁栄した北部九州。
そして、日本各地に割拠した地域政権の小国が争って、鉄「鉄素材」を求めて朝鮮半島へ向かい、国内諸国間での争いが起こる。[日本各地に地域小国が起こり、群雄割拠。 世にいう倭国大乱の時代]。
- ◎ 弥生時代の終末期 [2] 朝鮮半島の鉄素材の覇権を握った邪馬台国連合
鉄の安定供給確保を背景に日本の国づくりの始まり その国造りの象徴が巨大な前方後円墳築築造。
- ◎ 古墳時代の始まり 初期大和王権による日本の国造り 世にいう「空白の4世紀」
卑弥呼の時代を引き継ぎ、大和に生まれた日本統一政権 初期大和王権による古墳時代の始まり
日本に文字が伝来する5世紀初までは、この時代を記述した文書は日本になく、
日本と中国を中心とした東アジア交流を記述した中国の書記述と日本の各地出土遺跡の考古資料研究との突合せ検討に頼らざるを得ない時代。この時代の「鉄」についても事情は同じである。

■日本と朝鮮半島の交流

一方、この時代 中国大陸諸国と日本の狭間にある朝鮮半島もまた戦乱の伽耶・新羅・百済の三国時代。朝鮮半島に近い北部九州では、活発な交易・交流とともに、鉄素材を求めて朝鮮半島諸国に進出を始めた日本。朝鮮半島の鉄や先進技術を求めた日本進出の痕跡も朝鮮半島にも数多く残されていて、中国の書物にもその記述が垣間見える。 朝鮮半島南部に残る前方後円墳群や三国の争いへの日本介入の記録等々 また、数多くの工人たちが日本へ逃れ住み、半島に近い北部九州に限られていた先進技術が西へ広がり、大和王権の中樞大和にも。

「渡来人」の言葉と共に、大和王権の国造りに呼応して鉄鍛冶技術を含め、数多くの先進技術が伝来した時代でもありました。そして、5世紀初めには日本に文字 6世紀半ば仏教が伝来。

大和王権の国造りの進展とともに、大和周辺には 大和王権の中樞を担う豪族たちの鍛冶工房を含め、大規模な生産工房。日本の鍛冶技術・鉄器製造にも大変革。 実用鉄器の使用が大きく展開されてゆく。

そして、待ち望まれてきた製鉄の始まりは5世紀末頃

日本固有の技術として、砂鉄・鉄鉱石を原料として、たたら製鉄が始まる。

話はこんな風なのですが、その中身・実像はまだよく解明されておらず、数々の研究や調査が今も続く。

特に邪馬台国の時代から初期大和王権の時代は国内事情がまだ、よく見えず、「鍛冶技術の画期」

「畿内幻の鉄器の時代」「空白の4世紀」などといわれる所以でもある。

そんな背景の中、大和と大阪湾へ結ぶ生駒山北東端山麓 奈良盆地北部奈良市丸山の地

富雄丸山古墳 [円墳] から国宝級といわれる長尺の蛇行剣や盾形鏡が出土した。

卑弥呼の時代から大和王権につながる謎を解き明かす大発見。

特に蛇行剣は2m37cm という継ぎ目のない長尺剣 日本で独自に作られた剣と思える大発見。

盾形鏡も他に類を見ない発見。

久しぶり 古代史の謎を解き明かす大発見と大きな話題となりました。

TV や新聞では久しぶりの古代史を大きく塗り替える？ とセンセーショナルに伝えるが・・・

古墳の埋葬者は誰？ またびっくりする長尺2m37cm 継ぎ目のない長尺蛇行剣

TV や新聞等報道は 「ヤマト王権のすごさに迫る古代ミステリーが解き明かされる」と言うがこの時代にこんな「剣」が簡単に日本で造れるとは思えない。しかも大和で造られたか????と。

しかも文字や記録がない「謎の4世紀」「畿内の鉄器展開 鉄鍛冶技術についても謎だらけ。

ロマンあふれる大発見 古代史を塗り替えるかもしれない鉄遺物の出土に興味津々。

◆ 直ぐ頭に浮かんだのは百済から送られた国宝「七支刀」 この刀の製作方法?過程もいまだに謎。 2006年この復元作業の記録展が榎原考古学研究所で開催され、河内刀匠の手で復元の試みの詳細な復元技法を見た記憶がある。鉄素材鋳物の高温酸化脱炭法や高温鍛造法など刀匠たちの有する技法を盛り込んでの復元作業が克明に記録紹介された。

でも、数々の技法が明らかになったが、まだ確実な製作技法はわかっていないという。

今回の蛇行剣の制作プロセスの検討も今後の謎。 解が得られるのか楽しみ。

◆ また、天理市の博物館で開催されたこの時代の布留遺跡の展覧会で、今回の蛇行剣の柄によく似た剣の柄が沢山展示されていた。そして、長尺の鉄挟みが出土していたのも見た記憶がある。

布留遺跡他 畿内の遺跡でもこんな大型鉄器が作れる時代になっていたのか・・・

高温鍛冶の長尺鉄を使っての高温鍛錬を繰り返せば? 高温鍛冶炉が用いられたとの前提ですが・・・

でも 畿内に大型鍛冶工房が現れるのはもっと後の時代・・・

ならば 鍛冶技術の先進地 九州ならばどうだろうか・・・

朝鮮と独自の交流も示唆される日本海沿岸・関東にも可能性がある

◆ 弥生末期 国内最大級といわれた鍛冶工房村 五斗長垣内遺跡でも高温鍛冶の検討もなされてきた。鍛冶炉の底はまだ掘り込みのない炉・金切り加工が主の時代に用途がよくわからぬ大型の鉄素材が出土しているのも不思議。等々

かつてまとめた和鉄の道の資料が頭にいくつも浮かぶのですが、年代の順序もバラバラで、

資料の数は一番多いので、すっきり頭に残っていない。

この機会に数多くの和鉄の道掲載資料を一度年代別に並べて、頭の中を整理して、この謎の4・5世紀

大和王権の時代をしっかりと眺めつつ、富雄丸山古墳の位置づけも考えたいと、

和鉄の道の資料を整理リストアップに着手。

空白の4世紀の鉄の姿や朝鮮半島から手に入れた鉄素材が日本の新しい国造りの中で、玉造り等の工房が垣間見えるが、日常使われる実用鉄器に加工されていった過程は見えてこない。

謎の近畿 実用鉄器の姿はどんなだったのだろうか・・・

日本の起源と実用鉄器の展開が重なり合って、日本の国づくりが進んだ古墳時代そして古代。

和鉄の道資料の中身もまだばらばらですが、古代の鉄の姿 いろんなことが再認識できました。

資料そのものは和鉄の道に掲載した記事ばかりですが、見落とししていた資料も多くあり、

金切り鍛冶の時代から高温鍛造による大型・複雑実用鉄器展開への道筋が極めて重要な時代認識も。

そんな過程を浮き彫りにしてくれた富雄丸山古墳の長尺蛇行剣ほかの鉄遺物に興味津々です。

古い和鉄の道・Iron Road File の再整理リスト お役に立てばと。

大和と河内を隔てる南北の壁 生駒山地の北端部山麓「富雄丸山古墳 [円墳]」で発見された鉄遺物の数々。

まだ調査ははじまったばかり。

富雄丸山古墳に眠る人物と共にロマンあふれる「幻の4世紀の謎」を解き明かしてくれることに期待一杯です。

2024.4.25. Mutsu Nakanishi

鉄のロマン 生駒山地の北端部山麓 奈良市「富雄丸山古墳 [円墳]」の鉄遺物に接して

[1] [NHK スペシャル] 古代史ミステリー 第2集 ヤマト王権 空白の世紀 2024年3月22日

「相次ぐ新発見! 蛇行剣や盾形銅鏡から見てきたヤマト王権のすごさ」を視聴して

<https://infokkna2.com/ironroad2/2024htm/2024iron/24iron02.pdf>

■ 【映像資料 奈良市富雄丸山古墳出土の鉄遺物】 5分間に凝縮した「Nスペ5min」より整理転記

<https://www.youtube.com/watch?v=NsMpX5cieuA>

NHKスペシャルの魅力を5分間に凝縮した「Nスペ5min。」

『古代史ミステリー第2集 ヤマト王権 空白の世紀』のダイジェストをご紹介します。

■ 添付 富雄丸山古墳 第6次調査 現地説明会資料 2023.1.28 & 29. 奈良市教育委員会 埋文センター

https://www.gensetsu.com/20230128_tomio-maruyama/20230128_tomio-maruyama.htm

[2] 和鉄の道・Iron Road 資料に見る大和王権による国造りが始まった謎の4世紀 掲載資料の整理

資料 和鉄の道・Iron 「日本の国造りの始まりと鉄」 リンクリスト

<https://infokkna2.com/ironroad2/2024htm/2024iron/24iron03.pdf> 2024.4.20.

古代鉄のロマン一杯 生駒山地の北端部山麓「富雄丸山古墳(円墳)」の鉄遺物に接して

和鉄の道・Iron Road 資料に見る大和王権による国造りが始まった謎の4世紀

【資料 和鉄の道・Iron 「日本の国造りの始まりと鉄」 リンクリスト】

和鉄の道・Iron Road にその都度ばらばらに記事にしてきた日本の始まりと日本の鉄の歴史 整理
今回「日本の国造りの始まりと鉄」を Key Word に関連記事に関係項目で整理してリストアップ
和鉄の道・Iron Road 「謎の4世紀」を眺めなおす資料にしました。

【資料 和鉄の道・Iron 「日本の国造りの始まりと鉄」 リンクリスト】

「日本の国造りの始まりと鉄」を Key Word に和鉄の道・Iron 掲載関連記事整理

- 弥生時代鉄器伝来から始まる鉄器時代の流れの中心にある鍛冶加工と鍛冶炉・製鉄炉の変遷のベース
- ▼ 愛媛大学 村上恭通教授講演「弥生時代の鍛冶工房に関する基礎論」要旨収録
2019.6.30. 徳島埋蔵文化センター主催で加茂宮ノ前発掘調査報告会での講演要旨
鉄素材の鍛冶加工の中心にあった鍛冶炉の変遷と日本各地の鍛冶工房の様子と加工された鉄器の整理レビュー
<https://infokkna.com/ironroad/dock/iron/19iron06.pdf>
- ▼ 年表 和鉄の歴史 概説 和鉄の道【1】 口絵 2000 より
<https://infokkna.com/ironroad/dock/iron/jstla00.pdf>
参考 東アジア 製鉄技術の歴史 中国・朝鮮・日本 <https://infokkna.com/ironroad/tatara/tatara06.pdf>
参考 和鉄の道 口絵 <https://infokkna.com/ironroad/dock/ironkuchie.htm>
- ▼ たたら製鉄の原点を探して 古代製鉄炉の変遷 たたら炉の大きさと構造の変遷 和鉄の道【7】 口絵 2007 より
<https://infokkna.com/ironroad/dock/iron/7iron00.pdf>
- 弥生時代後期 淡路島に現れた国内最大級の鍛冶工房村の位置づけと役割
- ◎ 弥生時代後半 国内最大級の鍛冶の村 淡路島「垣内遺跡(鍛冶工房跡)」現地説明会 Walk
倭国から初期大和王権誕生へ 日本誕生の謎を解き 明かすかも・・・ 弥生時代後期(1世紀～3世紀前半)
<https://infokkna.com/ironroad/dock/iron/9iron02.pdf> 2009. 1. 25.
- ◎ 国内最大級の鍛冶の村 淡路島「垣内遺跡(鍛冶工房跡)」の位置づけ
一筋縄ではいかぬ古墳時代の幕開け 激動の時代 淡路島がその鍵を握るのか????
<https://infokkna.com/ironroad/dock/iron/9iron04.pdf> 2009. 03. 15 弥生時代後期(1世紀～3世紀前半)
- ◎ 弥生後期から卑弥呼の時代へ ベールを脱いだ「弥生のIron Road 和鉄の道」
淡路島 五斗長垣内遺跡の謎 シンポ 2010 聴講 弥生時代後期(1世紀～3世紀前半)
<https://infokkna.com/ironroad/dock/iron/10iron14.pdf> 2010. 11. 21.
 1. 五斗長垣内遺跡の概要 伊藤宏幸氏(淡路市教委) 講演「五斗長垣内遺跡と淡路島の弥生遺跡」より整理
 2. 五斗長垣内鍛冶遺跡の役割と時代的位置づけ 村上恭通氏 講演「弥生人が目指した鉄器化社会」より整理
 3. 大久保徹也氏(徳島文理大教授) 講演「播磨灘と五斗長垣内遺跡を考える
弥生後期の和鉄の道・Iron Road 瀬戸内をめぐる交流・地域間関係」より整理
 4. 弥生時代後期 近畿でも急速に実用鉄器化が進んだことを示す石の刃物の変化
禰宜田佳男氏(文化庁 主任調査官) 講演「近畿における石の刃物と鉄の刃物」より整理
 5. まとめ
- ◎ 大阪弥生文化博物館 2016 年春季特別展第3回考古学セミナー
「淡路島五斗長垣内遺跡にみる弥生時代の鉄器生産」淡路市教委 伊藤宏幸氏講演 聴講
<発掘調査と実証実験で>弥生後期の五斗長垣内遺跡ではすでに高温鍛冶が行われていた可能性を示唆
<https://infokkna.com/ironroad/dock/iron/16iron07.pdf> 2016. 5. 28.

- ◎ 淡路島北部の津名丘陵の弥生後期の生産工房群とみられる山間地集落遺跡群
中心の「舟木遺跡」から国内最大級の鍛冶工房跡が出土
淡路島弥生時代の鉄器拠点「淡路市 舟木遺跡」鉄器の交易をなりわいか?
近くの五斗長垣内遺跡を上回る新たな「弥生の鉄器拠点 国内最大級の鍛冶工房跡」が出土
<https://infokkna.com/ironroad/dock/iron/17iron01.pdf> 1世紀～3世紀初頭
- ◎ 海人族と密接な関係を持つ鉄器加工・製塩などの生産工房を持つ淡路島山間地集落遺跡群
その拠点集落【津名丘陵 舟木集落遺跡 弥生後期・終末期】現地探訪
1. 淡路島の西北部の狭い海岸に点々と続く野島海人の郷「野島」 弥生後期の製塩工房 貴船神社遺跡
2. 弥生後期 鉄器など生産工房を持つ淡路島山間地集落群の中心交易拠点「舟木遺跡」
<https://infokkna.com/ironroad/dock/iron/18iron06.pdf> 2018. 8. 29. 1世紀～3世紀初頭
- 弥生時代の終末期から古墳時代へ 畿内で急速な鉄器文化への転換が本当に起こったのか?
- ◎ 弥生時代後期 淡路島に西日本最大級の鍛冶工房村が現れた時代
近畿では「鉄器は出ないが、急速な鉄器化「幻の鉄器」の時代があった」との考えに疑問符
鉄器時代のイメージ先行の弥生時代 「北部九州以外実用鉄器はさほど普及してない!」
<https://infokkna.com/ironroad/dock/iron/11iron01.pdf> 2011. 3. 5. 2・3世紀
- 大和王権の大規模専用鍛冶工房 畿内での高温鍛造可能な鍛冶炉の出現は北部九州よりずっと遅れる?
- ◎ 「鉄の5・6世紀」大和の日本統一を支えた北河内の大規模専業鍛冶工房 大県製鉄遺跡
<https://infokkna.com/ironroad/dock/iron/4iron12.pdf> 2004. 7. 21 5・6世紀
- 朝鮮半島との交流玄関口「若狭」を再度訪ねる
- ◎ 卑弥呼の時代から大陸への玄関口 若狭・北近江の「若狭街道」大陸・朝鮮半島の鉄を求めて
<https://infokkna.com/ironroad/dock/iron/8iron09.pdf> 2008. 9. 1. 3世紀から5世紀
- ◎ 古墳時代 朝鮮半島との交流玄関口「若狭」を再度訪ねる
脇袋古墳群など若狭の王墓からの出土品見学 & 若狭小浜港・遠敷(おにゅう)の里 Walk
若狭の国 Walk まとめ 半島から大和へと続く東アジアの文物交流路・和鉄の道の日本海側窓口 若狭その実像
<https://infokkna.com/ironroad/dock/iron/11iron10.pdf> 2008. 9. 1. 3世紀から5世紀
- ◎ 「和鉄の道 Iron Road」から見た日本誕生前夜-北近江・若狭が輝いた時代
-北近江安曇川安曇あずみ会でのプレゼン
<https://infokkna.com/ironroad/dock/iron/11iron17.pdf> 2011. 12. 1. 3世紀から5世紀
- 初期大和王権の時代の始まりへ 大和王権と鉄
- ◎ 橿考研特別展「5世紀のヤマト展」と 畝傍山からの展望
5世紀初期ヤマト王権時代のヤマトと河内・大阪平野 【橿考研付属博物館特別展 図録再整理】
大和三山「畝傍山から 国のまほろば 奈良盆地を眺める」
<https://infokkna.com/ironroad/dock/iron/13iron08.pdf> 2013. 5. 25.
- ◎ 初期大和政権〈三輪王権〉が王城の地に求めた産鉄の地 鉄の山「三輪山」& 山麓を縫う山の辺の道
<https://infokkna.com/ironroad/dock/iron/4iron08.pdf> 2004. 3. 23 3から4世紀後半
- ◎ 金剛・葛城 山麓 葛城氏の鍛冶工房「忍海」渡来人が住み鉄鍛冶の技術を伝えた古代「忍海」
<https://infokkna.com/ironroad/dock/iron/5iron05.pdf> 2025. 3. 9. 4世紀末から5世紀前半
- ◎ 大阪歴史博物館特別展「渡来人 いずこより」 渡来人のふるさとから たたら源流を眺める手掛かりに
<https://infokkna.com/ironroad/dock/iron/17iron04.pdf> 2017. 5. 18.

■ 大和王権成立の古墳時代へ

◎ 日本初の都市の出現 纏向遺跡を歩く

3 世紀

<https://infokkna.com/ironroad/dock/iron/12iron07.pdf>

2012. 7. 24 & 8. 23.

1. 纏向遺跡 日本における都市の初現の概要
2. 邪馬台国の王都??と騒がれた 大型特殊建物群跡と纏向古墳群を見て歩く
桜井線西側3世紀前半の纏向中枢地区大田地区と纏向古墳群の東田地区
鉄をキーワードに纏向遺跡の謎を探る纏向再訪walk 纏向遺跡 人工都市の意味と鉄の役割体现walk

◎ 「鉄」で栄えた近江の中心都市集落 「彦根市稲部遺跡」訪問記(現地説明会)

纏向遺跡に匹敵する大型建造物のある鉄器物流を担う拠点都市集落が出土

弥生時代中葉(2世紀)から古墳時代中期(5世紀)にかけて 継続する巨大集落。

2 世紀中～5 世紀

琵琶湖交通・北陸や美濃・尾張・伊勢など東日本と畿内をつなぐ交通の重要な結接点 近江の彦根

<https://infokkna.com/ironroad/dock/iron/16iron16.pdf>

◎ 日本誕生にかかわる古墳前期 4 世紀の祭祀区画と居住区画を持つ大集落が大和葛城で出土

4 世紀

大和王権の宗教施設? 大和葛城 御所市 秋津・中西遺跡の発掘調査現場を訪ねる

<https://infokkna.com/ironroad/dock/iron/15iron13.pdf>

2015. 8. 23.

◎ 檀考研特別展「5 世紀のヤマト展」と 畝傍山からの展望

5 世紀

5 世紀初期ヤマト王権時代のヤマトと河内・大阪平野 【檀考研付属博物館特別展 図録再整理】

大和三山(畝傍山から 国のまほろば 奈良盆地を眺める

<https://infokkna.com/ironroad/dock/iron/13iron08.pdf>

2013. 5. 25.

■ 大和王権の武器庫と軍事を担った物部氏 生駒山北端 & 蛇行剣が頭に浮かび、ふと富雄丸山古墳の主は物部氏の繋がりと

◎ 石上神宮の国宝「七支刀」の復元展にあわせて 物部氏の本拠地布留を訪ねる

2006. 3. 17.

<https://infokkna.com/ironroad/dock/iron/6iron05.pdf>

4 世紀後半

◎ 初期ヤマト王権を支えた物部氏の本拠地「布留遺跡」再訪 布留遺跡に抱いていたイメージが随分変わりました

天理参考館「大布留展」関連講演会「ヤマト政権の生産体制を探る」聴講

2012. 5. 19.

<https://infokkna.com/ironroad/dock/iron/12iron05.pdf>

4 世紀後半から 6 世紀

1. 物部氏の本拠地「布留遺跡」概要 検出された遺構と出土遺物から遺跡の姿を知る
天理参考館「大布留遺跡展・物部氏の拠点集落を掘る-」図録の再整理
2. 大布留展&関連講演会に参加 鍛冶工房だけではない遺跡の姿も見えてきた
3. 物部氏の本拠地 天理市布留遺跡再訪Walk 遺構・遺物の出た場所を意識して布留遺跡を歩く

物部氏の武具 武器製造を推測させる三島里中地区から出土した大量の把装具類並びに流路からは多量の鉄滓や砥石も出土していることから、刀や剣などの武器類をつくる大掛かりな武器工房がこの近辺にあったことを推測させる(5・6世紀の三島里中地区) 富雄丸山古墳の蛇行剣の把装具とそっくり

◎ 古代 北河内 肩野物部氏の本拠地 交野界限 大和王権を支えた鍛冶工房森製鉄遺跡を訪ねる

2005. 7. 27.

<https://infokkna.com/ironroad/dock/iron/5iron11.pdf>

2005.7.25.

5 世紀後半から 7 世紀

物部氏は河内国の交野に神武天皇よりも前に天磐船により先に大和入りをした饒速日命を祖先と伝えられる一族

◎ 調査 80 年、見えてきた布留遺跡「物部氏の拠点」研究成果発表 朝日新聞デジタル

2022. 9. 22.

6 世紀後半に物部守屋は蘇我馬子や聖徳太子と対立し、587 年に滅ぼされた。

しかし 物部氏は石上氏と名を変えて存続し、布留遺跡での土器の生産も平安時代前期まで続いた。

また、「6 世紀の布留遺跡の中枢は今の天理大の東にあったようだが、本格的な調査はされていない。

今後の天理市や天理大の調査に期待したい」という。

<https://infokkna2.com/ironroad2/2022htm/2022iron/22iron10.pdf>

■ 古代大和への鉄の道

◎ 古代大和の鉄の道【1】 淀川・木津川から大和へ 大和の外港 木津「泉津」を訪ねて

<https://infokkna.com/ironroad/dock/iron/7iron05.pdf>

2007. 3. 23.

参考 く 生駒野山の北端から北河内肩野物部氏の本拠地 交野から河内・河内湖・大阪湾へ抜ける陸路も)

<https://infokkna.com/ironroad/dock/iron/5iron11.pdf>

2005. 7. 27

● 古代大和の鉄の道 (2) 大和川「カメのセ・龍田悦」Country Walk

<https://infokkna.com/ironroad/dock/iron/7iron09.pdf>

2007. 7. 31.

◎ 古代大和への道【4】 紀ノ川水系【2】 古代「紀路」紀ノ川の流れに沿って大和へ

<https://infokkna.com/ironroad/dock/iron/7iron15.pdf>

2007. 7. 31.

◎ 藤尾慎一郎著「新弥生時代 500年早かった水田稲作」を教科書に

絶対年代計測考古資料データを基にした 弥生時代の鉄と稲作ならびに弥生時代の時代感整理メモ

<https://infokkna.com/ironroad/dock/iron/20iron06.pdf>

2020. 8. 27.

**「鉄の起源・ユーラシア大陸の東西を結ぶ
金属器&鉄文化東遷の道」探求 2009~2019**

愛媛大東アジア古代鉄文化センター村上恭通教授らが10数年にわたり進めてきた国際プロジェクト
毎年一年ごとに開催されてきた成果報告の国際シンポジウムに参加させていただいた聴講記録
本年4月 私蔵版の聴講記録集成として 私なりに整理 まとめ掲載させていただきました。

愛媛大東アジア古代鉄文化センター国際シンポ 聴講記録集成
聴講記録 たたらの源流 鉄の起源 & ユーラシア大陸東遷の道
電子Book Eurasia Iron Road 2020.4.1.

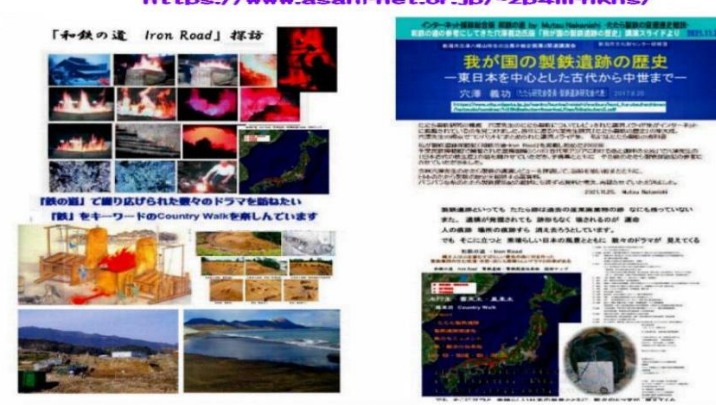


**「鉄の起源・ユーラシア大陸の東西を結ぶ
金属器&鉄文化東遷の道」探求 2009~2019**

<https://www.infokkna.com/ironroad/2020htm/iron16/2004Eurasiaironroad00.htm>

私蔵版「和鉄の道・Iron Road」【Review2】 たたら探訪通史 (たたらの歴史)

私の和鉄の道・Iron Road たたら探訪通史
Mutsu Nakanishi 和鉄の道・Iron Road 製鉄遺跡の歴史探訪記の Review
穴澤義功氏講演資料「我が国の製鉄遺跡の歴史」をベースに和鉄の道を眺める
by Mutsu Nakanishi 2021.12.1. 作成
Mutsu Nakanishi Home Page Since1999
<https://www.asahi-net.or.jp/~zp4m-nkns/>



私蔵版ですので、ご配慮をお願いします

<https://infokkna.com/ironroad/2021htm/iron17/R0312MutsuIronRoad2021Bphoto.pdf>